６－２　実践協力校における授業実践
事例②　小学校　４年生社会科

Ⅰ　単元計画

１．単元名　小学校第４学年　社会科　開発にたずさわる人々「中井中央公園」

２．単元の目標

・中井町の計画によって作られた中井中央公園を調べ、町が住民のことを考え、公園を作ったことをとらえるとともに、人々の生活の向上を願って開発を進めていることについて考える。

３．単元の指導計画（14 時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1	◇中井中央公園について想起する。 ◆中井中央公園の写真や、これまで利用した経験などをもとに、中井中央公園と自分たちの生活について考える。
2 3 4	◇中井中央公園を見学し、学習問題をもつ。 ◆中井中央公園に行き、実際に体験したり見学したりする。 ◆公園やそこを利用する人々の様子を調べる。 ◆中井中央公園について疑問に思ったこと、調べたいことなどをもとに、学習問題を作る。
5 6	◇中井中央公園について、くわしく調べる。 ◆中井中央公園の完成までの歴史を調べる。 ◆中井中央公園について、開発・整備に携わる町役場の方の話を聞き、中井町やそこに住む人々の願いについて知る。 ◆中井中央公園があることによる、自分たちの生活のよさについて確かめる。 ◆中井中央公園は現在も開発中で、最近新たに「なかい里都まちカフェ」がつくられたことを知る。　＊「なかい里都まちCAFÉ」……町のにぎわいと地域経済の活性化を目的に、平成29年５月に中井中央公園内に整備された。中井町商工振興会が運営。地域ブランドの特産品なども販売。
7	◇「なかい里都まちカフェ」について見学の計画を立てる。 ◆「なかい里都まちカフェ」や、週末ににぎわう公園の様子などの写真や資料などを見て、多くの人が訪れていることに気がつく。 ◆「なかい里都まちカフェ」を見学する計画を立てる。
8 9	◇「なかい里都まちカフェ」を見学し、学習問題をもつ。 ◆「なかい里都まちカフェ」内部の様子を見学し、施設のつくりや販売しているものを確かめる。 ◆「なかい里都まちカフェ」を計画した人や働く人々の話を聞き、中井町のにぎわいや地域の活性化を目的としていることを知る。 ◆中井町のために、自分たちにも何かできることはないか、学習問題をもつ。
10 11 12 本時 13	◇「なかい里都まちカフェ」の活用方法や、もっと広く知ってもらうための方法について考える。 ◆見学したことやインタビューしたことをもとに、グループで中井町の人々の願いをかなえられるような「なかい里都まちカフェ」の活用や知ってもらうためのアイデアを考える。 ◆「なかい里都まちカフェ」の活用や知ってもらうためのアイデアを交流し合い、お互いのよさを取り入れることで、よりよい考えにつなげる。
14	◇学級で話し合い、計画したアイデアを伝える。 ◆自分たちで考え計画した「なかい里都まちカフェ」活用や知ってもらうためのアイデアを、町役場やカフェで働く方々に伝える。 ＊総合的な学習の時間を使い、実際に活動する。

Ⅱ　本時の様子

１．本時の目標　○提案をしたり、感想を伝えたりする活動を通して、「なかい里都まちカフェ」のために自分たちができることを、より具体的に考える。（12/14）

２．本時の展開

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視点

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	**①「なかい里都まちカフェ」を運営する人々の願いを振り返り、本時のめあてを確認する。** ○Ｔさんの願いと、本時のめあてを確認しよう。 ・カフェがもっとすてきな場所になるようにしたい。 ・カフェのことを多くの人たちに知ってもらいたい。 ・発表したり、感想を伝えたりして、自分たちにできることを考える。 「なかい里都まちカフェ」のために、わたしたちができることを、発表したり、感想を伝えたりしてみんなで考えよう。	
展開	**②自分たちができることをグループごとに発表し、それに対して感想を伝える。** ○はじめに「もっと知ってもらう」グループが提案しよう。 他の人たちはよく聞いて、感想やアドバイスを伝えよう。 ・「広告・チラシ」グループ…チラシを「レジ袋に入れてもらうのは、いいアイデアだと思いました。 ・「ポスター」グループ……ポスターをはるとき、だれに頼めばいいのかな。 ・「ロゴマーク」グループ……カフェっぽいロゴマークで、いいと思いました。 ・「ＣＭ」グループ……カフェにあるテレビで、ＣＭをたくさん流してもらえばいいと思う。 ○次に「もっとすてきな場所にする」グループが提案しよう。 他の人たちはよく聞いて、感想やアドバイスを伝えよう。 ・「かざり」グループ……クリスマスに合うかざりをつけると、いいと思います。 ・「イベント」グループ……町のキャラクターは、どうやったら呼べるのかな。 ・「お皿に絵」グループ……絵のアイデアを募集したらいいと思います。 ・「メニュー」グループ……中井町の野菜や果物を使うのは、いいアイデアだと思います。	なかい里都まちカフェを運営するＴさんの願いを知る ↓ 自分たちでできることを、なかい里都まちカフェに提案する ↓ 町の一員としての自覚をもち、社会に参画する体験を積む 他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する
ま と め	**③友だちの感想をもとに自分たちの提案内容について振り返る。** ○もらった感想をもとにして、「なるほどと思ったこと」「付けたしたいこと」「まだ、心配なこと」を振り返ろう。 ・皿の絵をみんなに募集するのは、たくさんの意見が聞けそう。 ・ＣＭはカフェでとりたいな。 **④グループで振り返った内容を、紹介する。** ○振り返ったことを発表しよう。 ・ＣＭをカフェのテレビで流していいか、Ｔさんに聞いてみたい。 ・ポスターをはる場所を考えたので、町役場の人に相談したいな。	「なかい里都まちカフェ」のために、自分たちができることを、発表したり感想を伝えたりして、より具体的に考えることができたか。 （思考・判断・表現）

目指す子どもの姿
公共施設を利用したり、そこに携わる人と関わったりする中で、よりよい施設にしようとすることを、自分のこととして考える姿。他者の考えを聞き、自分の考えと結びつけながら、よりよい方策をつくりだしていく姿。

Ⅲ　研究協議



１．自評

○「身近な素材を自分のこととしてとらえること」が大切と思い、第４学年の段階において「まちのことを自分のこととしてとらえること」を目指し、児童にとって身近なふれあいの場となっている「中井中央公園」を教材化した。

○児童から「中井中央公園がどんな願いをもって作られたのか？」という学習問題があがり、公園に見学に行くだけでなく、中井町まち整備課の方からお話を聞くことにした。お話から、児童は、中井中央公園が①町としての願い②町民の願いを盛り込んで作られたことをとらえることができた。さらに、中井中央公園にある今年の５月にできたばかりの「なかい里都まちカフェ」にも見学に行き、そこで（ボランティアで）働くマネージャーの方から、もっとカフェを知ってもらい、もっとよくしたいという願いを聞くことができた。児童は、中井中央公園やなかい里都まちカフェをもっと盛り上げたい、ひいては町をよりよくしたいという思いに至ることができた。そこで、なかい里都まちカフェを盛り上げるために、自分たちでも何かできないか、さまざまなアイデアを考え、提案することにした。

○本時では、互いのアイデアに対して、質問や感想・意見を述べ合うことを重視した。このような経験を積み重ねることが、将来において社会に参画する一歩につながると考えている。この後、役場のＭさんやカフェのマネージャーのＴさんに提案をすることで、自分たちも町をつくる一員なのだという社会参画意識がさらに高まることを期待したい。

２．研究協議のテーマ

○社会参画意識をもつ（自分のこととして意見に責任をもつ）手立てとは

３．成果と課題

成果・社会参画意識をもつ手立てとして、実現可能な目標を明確にして、児童に自己有用感をもたせることが重要であることが確認できた。また、授業者は、関係機関との連携などを通じ、児童が提案した内容を実現させる見通しをもって単元構想を行うことが重要であることが再確認できた。

・地域の現実的な話題を教材化することは、児童自身が地域の身近な問題について「自分のこと」としてとらえ考えるために有効であることが確認できた。また、当事者意識をもって考えやすく、論点が絞りやすいテーマを設定することだけではなく、児童自身が、合意形成に至ろうとする過程や努力が大切だと価値づける体験を取り入れることが重要であることが確認できた。

課題・小学校社会科としては、地域の人々の思いに共感／感動し、郷土愛を育んでいくことが大切である。本時までの時点で、児童に中央公園に携わる人々の思いに、もう一歩踏込んでほしい。

・社会参画の視点としては、単なるアイデアの出し合いではなく、「町のために」という思いと根拠が共通理解できていてほしい。

・意見や感想として仲間に言われたことを、どう受け止め、自分たちのものにしていくか。

＊例：あるグループのアイデアと、別のグループのアイデアを組み合わせるという意見が出ている。このような「つながる」経験も大切ではないか。

【なかい里都まち CAFÉ　PR ポスターの掲示】

なかい里都まち CAFÉ をもっと知ってもらおうと、中村小学校４年生の生徒が、手作りでポスターを作成してくれました。



今秋から３月２日まで町内の公共施設に作品を展示します。添付した写真は、役場庁センターに掲示したポスターで、井ノ口公民館、境コミュニティセンター、中央公園野球場、レストハウスにも掲示します。

約２週間展示した後は、なかい里都まち CAFÉ に全作品が集合する予定ですので、お楽しみに。

これらの施設にお立ち寄りの際は、生徒たちが一生懸命作ってくれた作品を見てみてください。

里都まちカフェの為に、子供達が作ってくれたポスターが中井町のいろんな施設に展示されます！
ありがとうございます。
とてもうれしいです！

≪出典：なかい里都まち CAFÉ Facebook 平成 30 年2月 19 日≫

≪出典：中井町役場 Facebook　平成 30 年2月 19 日≫

＜コラム＞

児童が授業で考えたアイデアは、すべてなかい里都まちカフェへ提案され、その中から「ポスター」案が採用されました！

なかい里都まちカフェを「もっと知ってもらうために」児童が工夫を凝らして作成したポスターは、町内の公共施設に掲示された後、なかい里都まちカフェでも紹介されました。

授業を通して、児童は、地域社会に参画する手ごたえを実感したことでしょう。

このような体験を積み重ねていくことで、政治的教養は育まれていくのです。



≪写真提供：なかい里都まち CAFÉ　ホームページ≫

Ⅳ　実践協力校での授業実践を基にした指導事例

H29-2　小学校　４年生社会科／総合的な学習の時間
開発にたずさわる人々「中央公園」

【単元目標】
・市町村の計画によって作られた中央公園を調べ、市町村が地域住民のことを考え公園を作ったことをとらえるとともに、地域住民の生活の向上を願って開発を進めていることについて考える。

【目指す子どもの姿】
・公共施設を利用したり、そこに携わる人と関わったりする中で、よりよい施設にしようとすることを、自分のこととして考える姿。
・他者の考えを聞き、自分の考えと結びつけながら、よりよい方策をつくりだしていく姿。

１　本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学　習　活　動（全 14 時間）	ポイントになる学びのプロセス
中央公園を調べてみよう④ ・中央公園について、知っていることや経験したことを話し合う。 ・中央公園に見学に行き、公園やそこを利用する人々の様子を調べる。 **中央公園の開発にかかわる役場の人の話を聞こう②** Ｃ：なぜ中央公園を作ることにしたのですか？ Ｇ：スポーツができる公園がほしいという町の人々の願いがあったからです。できたばかりの「まちカフェ」について多くの意見が聞きたいです。 Ｃ：それって、わたしたちも意見を言っていいのかな？ Ｔ：みんなも「地域の人々」だから、意見を言っていいですよ。では、みんなは、中央公園のこれからを考えるために、まずはどうしたいですか？ Ｃ：できたばかりの「まちカフェ」に行って、いろいろ調べたい！ **「まちカフェ」についての学習問題を考えよう③** Ｔ：「まちカフェ」を見学して、何がわかりましたか？ Ｃ：役場のＭさんは、町がもっとにぎわってほしいと言っていたね。 Ｃ：「まちカフェ」で働くＴさんは、カフェを町のいいところを知ってもらえる場所にしたいと言っていたよ。 Ｃ：「まちカフェ」がもっとにぎわうために、自分たちが何かできることはないかな。 **「まちカフェ」のために自分たちができることを考えよう④** Ｔ：見学したことやインタビューしたことをもとに、「まちカフェ」をもっと知ってもらうためや、もっとすてきな場所にするためのアイデアをグループで考えて、発表してみよう。 Ｃ：カフェで使うお皿に、町をＰＲする絵を描くことを提案します。 Ｃ：絵は、だれが描くのですか？ Ｃ：みんなから募集できるといいと思っています。 Ｃ：「ロゴマーク」グループの考えたマークを使わせてもらえないかな。 **計画したアイデアを伝えよう①** Ｔ：学級で話し合い、グループごとに計画した提案を伝えましょう。 Ｃ：自分たちの考えたことが、実現するとうれしいな。	**ポイント1** **○自分の身の周りのできごとに関心をもつ** **ポイント2** **○他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する** **ポイント3** **○主体的に社会に参画する**

2　政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

当事者の思いを共感的に理解させましょう。

当事者の思いを共感的に理解することは社会的事象を自分のことに引き寄せることにつながり、かつ社会参画の意識を醸成していくことになります。

本時例では、児童にとって身近な中央公園が、役場の方の話を聞くことで、地域の人々の願いが込められた大切な施設であることに気づき、さらにまちカフェという中央公園内にできた新しい施設で働く方の話を聞くことで、町をよりよくしたいという郷土愛をもっていることを理解していきます。彼らの「まちをよりよくしたい」という思いに児童が共感し、自分たちにも何かできないかという思いがめばえ、社会参画への第一歩へとつながっていきました。

ポイント2

友だちのアイデアを肯定的に受け止めることを意識させながら活動をすすめましょう。



お互いにアイデアを発表する際には、友だちのアイデアを肯定的に受け止めるよう指導しましょう。また、質問に答えられない場合の対処についても事前に指導しておき、グループの話し合い活動や人間関係をよりよく構築できるようにしていきましょう。

また、自分たちの提案したアイデアの実現可能性についてお互いにアドバイスし合ったり、もらったアドバイスをもとに、より実現可能性のあるアイデアになるように話し合ったりする活動を取り入れることや、周囲の大人にアイデアを聞いてもらう活動を取り入れることで、より現実的な提案を練り上げていくことが可能になります。これらの活動は、自分の考えを再構築する過程として、大切にしたい視点です。

ポイント3

社会参画型の提案が実現する体験を積み重ねましょう。

児童に、社会参画の意識をもたせるためには、自分たちが提案した意見やアイデアを取り入れてもらえる体験を積み重ねることが大切です。そのためには、まずは、地域をよりよくするために、実現可能性のある提案を児童自身が責任感をもって行うことです。



そして、その提案を周囲の大人が真摯に受け止め、提案したことが実現されることで、児童は「自分たちの考えたことが、地域の役に立った」という自己有用感をもつことができます。

その充実感は、次の社会参画型の提案への意欲につながり、やがて「社会をよりよくするために、自分は何をすればよいのか」を自然に考えられる、公民としての資質をもつようになっていくでしょう。